

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

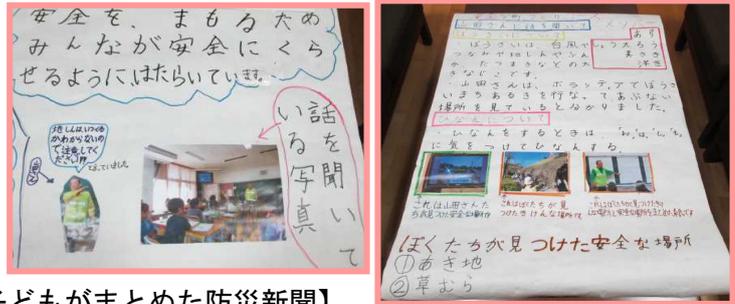
教育委員会名	小郡市教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業
研究のねらい	○防災担当部局と連携し、協働して学校づくりを行う体制（学校運営協議会）の組織、運営体制づくり、及び学校運営協議会の具体的な取組の企画・実施・評価の在り方を明らかにする。
研究の概要	<p>○小郡市協働推進課防災安全係、協働のまちづくり協議会棒材部会と連携した学校防災の日の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1校時 各学年・学級による防災教育の授業（保護者・地域参観授業）</li> <li>・ 2校時 PTAによる地域安全防災研修会 講演会『防災先進地域の取組に学ぶ』 講師 小郡市役所 総務部</li> </ul> <p>協働のまちづくり協議会防災部会より 小郡市役所 防災安全係 より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3校時 災害時避難訓練（「緊急地震速報」活用） 保護者への引き渡し訓練 保護者との災害時下校訓練</li> </ul> <p>○台風接近時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4時間授業 給食終了後、地区別に分かれて集団下校</li> </ul> <p>○災害（地震）避難訓練（予告なし）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震度5の地震を想定した避難訓練</li> </ul>
研究の成果	<p>○学校防災の日（平成27年6月20日）【写真1】を実施して、以下の課題が明確となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時の下校パターンをどうするのか</li> <li>・ 保護者への引き渡しの具体的方法</li> <li>・ 災害に備えた日頃の準備</li> <li>・ 地域や中学校との合同訓練</li> <li>・ 集合訓練の定期的な実施</li> <li>・ 情報の伝達方法について</li> </ul> <p>学校運営協議会では、実施後の反省やアンケートに寄せられた意見をもとに、学校防災マニュアルの作成に向けて、今後も協議を重ねていくことを確認した。</p> <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">  <p>【写真1 防災の日の様子】</p> </div> <p>○台風接近時の対応（平成27年7月20日）</p> <p>1学期の終業式の日、台風が接近していたため、集団下校を実施した。そこで、見えてきた課題に対して意見交換を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">学童保育</div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">学校</div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">保護者</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急性や安全性を考慮し、学童保育の児童用マニュアルの作成をお願いしてはどうか。</li> <li>・ 学童保育と学校とで、日頃から連絡体制をとる。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に学校からメール配信とおたよりの両方で知ることができ、対応しやすかった。</li> <li>・ 帰宅後に班長からの連絡（帰宅報告）をしてはどうか。</li> </ul> </div> </div>

学童保育と学校、学校と保護者との連携をいかにしていくか、実践を通して明らかとなってきた。

○3年生「総合的な学習の時間」の実践より

3年生「総合的な学習の時間（ありがとう地域の人）」の学習では、防災部会長山田さんを迎え、校区の防災がどのように進められているのか、そして、どのような思いで取り組まれているのか、校区を一緒に周りながら学ぶことができた。

そして、子どもたちは、学んだことグループごとに模造紙にまとめ【写真2】、クラスで情報交換を行った。子ども達にも、学習を通して防災の取組への意識を高めることができた。



【写真2 子どもがまとめた防災新聞】

○災害（地震）避難訓練（平成28年2月4日）

〔事前〕子どもたちには、2月1日の週の初めに避難訓練を抜き打ちで実施することを伝える。

〔当日〕13:25 放送室より「緊急地震速報」の放送を流す。

→初期対応の様子を確認

12:26 緊急地震速報終了後、職員室より一斉放送を流す。

→二次対応の様子を確認

【成果】

- ・災害がいつ起こるか分からないので、休み時間の実施はよかった。
- ・事前に予告していたせいもあり、スムーズに避難できた。

【課題】

- ・地震後、安全確認のための放送指示を聞かずに、移動していた。
- ・放送が聞き取りにくい場所があった。
- ・事前に予告していたこともあり、緊張感がたりなかった。
- ・休み時間は、いろいろな場所に子どもがいるので、上級生が下級生に声をかけるとよいのではないか。
- ・放送機器が壊れていた場合の対応。
- ・集合後の職員の数確認はどうするか。

【改善策】

- ・CDによる緊急地震速報を流す場合、職員室の一斉放送を利用する。
- ・常に、放送がはじまったら、静かに聞く習慣を徹底させる。
- ・事前予告なしに行う。（実際の状況に近づけるため）
- ・放送機器が使用できない時の対応確認（ハンドマイクの場所確認）
- ・職員の数確認後、巡回確認後の報告手順を学校防災マニュアルに記載。

本件  
問い合わせ先

小郡市教育委員会教育部教務課教務係  
TEL:0942-72-2111 FAX:0942-73-5860 E-mail: kyomu@city.ogori.lg.jp

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	嬉野市教育委員会
研究課題	関係機関等の資源を活用した学習プログラムの作成
研究のねらい	<p>嬉野市塩田町は、古くから河川の氾濫や台風による被害に見舞われてきた。しかし、ここ数年は大きな被害が出ていないことや地震が極めて少ないこともあり、東日本大震災等の大災害があったにもかかわらず、防災に対する小中学生及び地域住民の意識は高くない。そこで関係機関と協働し、防災に関する学習プログラムを作成し、防災意識の高揚を図ると共に、災害時に適応できる冷静な判断力と行動力を中学生に身に付けさせ、地域全体の防災意識の高揚を図りたい。</p> <p>また、近い将来、新幹線が開業予定であり、新幹線を活用した街づくりもこれからの課題である。そこで、小・中学生にも将来の街づくりに参画する機会を与え、郷土を愛し、郷土を育てる心を育成したい。</p>
研究の概要	<p>(1) 塩田中学校において、関係機関との協働により、防災について理解を深め、地域防災訓練等に自主的に参加しようとする態度を育成するための学習プログラムを作成する。</p> <p>(2) 企画政策課と協働し、新幹線開業を見通した街づくりに小・中学生が参画する機会を与える。</p>
研究の成果	<p>(1) 防災教育への取組</p> <p>① 協議体会議を開催し、「知る」→「深める」→「広げる」という3つのプロセスからなる学習プログラムを作成した。</p> <p>② 塩田中学校防災教室の開催（テーマ「知る」）          全校生徒を対象に防災教室（70分）を開催した。「災害について知ろう～塩田町の災害の歴史」というDVD（事務職員が作成）を視聴し、防災担当課の講話により、塩田町の災害の歴史に学んだ。過去の災害について初めて知ったという生徒も多く、有意義な学習となった。</p> <p>③ 夏季休業中のレポート課題（テーマ「深める」）          自分の住む地域でフィールドワークを行い、地域の方へインタビューをしたり、防災マップを作ったり、様々な視点から全員がレポートとしてまとめることができた。レポートにする過程で、新たな課題を発見した生徒もいた。</p> <p>④ 地域防災訓練等への参加（テーマ「広げる」）          自主防災組織の活性化が、市としての課題となっていたが、中学生が、地</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="371 1659 874 2033">  <p>&lt;地域の方と一緒に防災マップ作り&gt;</p> </div> <div data-bbox="898 1659 1401 2033">  <p>&lt;完成した防災マップを発表&gt;</p> </div> </div>

域防災訓練に参加し、中学生の視点から意見を言うことができた。大人の視点からでは見えない危険や課題が浮き彫りになるなど、中学生の活躍の場が与えられ、中学生の参加が非常に有効であることが分かった。

⑤ 「防災講演会」の開催

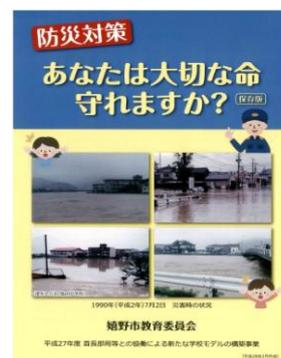
これまでの学習のまとめとして、阪神大震災等で防災救援コーディネーターとして活躍された伊永 勉氏を講師に招き、「いのちを守る防災と減災」という演題で防災講演会を開催した。

この講演会によって、避難訓練に参加しようと思った生徒、中学生が「助けられる側から助ける側にならなければ」と決意した生徒、準備や予想して動くことの重要性を再確認した生徒、日頃から地域の人と挨拶を交わしておくことの重要性を再認識した生徒、など多くの生徒が感銘を受け、中学生ができることは何かを考える機会となった。

⑥ 「防災リーフレット」の作成

中学生の視点からまとめた「防災リーフレット」を協議体会議で検討し作成した。

このリーフレットは、市の防災担当課から嬉野市地域防災会議で紹介したところ、中学生の意見を参考に作り上げた「防災リーフレット」が市民全体の防災意識の高揚や災害に対する備えに有効であることが分かった。非常に好評であったため、全戸配布することになった。中学生の取組が市民全体に広がった成果と言える。



(2) 将来の街づくりへの参画について

○ 絵画コンクール、作文コンクールの実施

企画政策課と協働し「10年後の嬉野市」をテーマに絵画コンクールと作文コンクールを実施した。作品は、主に夏季休業中に制作した。出来上がった作品は「嬉野市制10周年記念式典」の会場に展示され、優秀作品に選ばれた12名の児童に対し、式典の中で表彰式が行われた。

作文の最優秀作品は、式典の中で本人が朗読した。街の現状を分析し、改善策を提示し、街の発展への願いを込めた素晴らしい作文であった。まさに、総合的な学習の時間で取り組んだ「郷土を学び」「郷土で学び」「郷土に生かし」「郷土を育てる」というテーマを積み上げた成果としての作品だった。



<展示された絵画>



<作文の発表>



<優秀作品12名の表彰>

本件  
問い合わせ先

※嬉野市教育委員会 学校教育課 [TEL:0954-66-9128](tel:0954-66-9128)  
FAX:0954-66-5676 E-mail:gakkou@city.ureshino.lg.jp

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	武雄市教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業
研究のねらい	<p>首長部局との連携により、市の機関のもつ機動性を活用するとともに、郷土を愛する生徒を育成するために、地域に学び地域に貢献する相互便益の教育活動を実践研究することで、「地域とともにある学校」の取組をより円滑で充実したものにする。</p>
研究の概要	<p>1. 首長部局等と連携した学習の場を設定し、共同(協働)学習を活かしたコミュニケーション能力等の向上を図る。</p> <p>①子ども教育部教育政策課との連携</p> <p>(i) 毎月、赤ちゃんやその母親と交流を図る「赤ちゃん教室」を実施。</p> <p>(ii) 10月、3年生が地域の園児と交流する「育ちあい講座」を実施。</p> <p>②総務部市民協働課との連携</p> <p>8月5～8日に「東日本大震災被災地視察研修」を実施し、10名の生徒が参加。また、研修の報告を北方町育成町民会議や武雄市トムソウフェスティバル(青少年育成事業)で行い、市民に対して被災地の現状や震災の教訓などを伝えた。</p> <p>③営業部農林課との連携</p> <p>11月、働くことの意義や苦勞を学ぶため、1年生の「農業体験学習」を実施。</p>  <p>2. 郷土に誇りを持ち、郷土を愛する豊かな心を持った生徒を育成するために、地域との相互便益について研究し、サービスラーニングを含めた地域に貢献する体験活動により問題解決能力等の向上を図る。</p> <p>①サービスラーニング「きたがた学び舎」の実施</p> <p>地域貢献活動の一環で、北方町民が学校で学ぶ「きたがた学び舎」を実施。生徒は学び舎の各活動(コーラス、切り絵、パソコン)において、参加者の活動の補助を行った。</p> <p>②サービスラーニング「読み聞かせ活動」の実施</p> <p>地域貢献活動の一環で、「北方小学校児童への読み聞かせ活動」を実施。実施にあたっては、図書館司書による事前指導(読み聞かせのコツ・姿勢・選書の方法)や本の借用などで、武雄市図書館と連携した取組となった。</p> <p>③吹奏楽部による地域貢献活動</p> <p>吹奏楽部が、地域行事や施設を訪問して吹奏楽演奏を実施。地域の様々な年代の人と音楽を通じたコミュニケーションを図った。</p> <p>④ボランティア活動の充実</p> <p>町内の公民館分館単位で開催される「地域子ども教室」において、中学生が地域主催者の補佐として、小学生の学習支援や体験活動支援などを行った。</p> <p>また、町民体育大会の役員補助や地域行事「きたがたフェスタ」での募金活動・</p>

会場清掃活動などの地域貢献活動を実施。



3. 加配事務職員(コーディネーター)を中心とした地域の実態調査をもとに、地域や家庭のニーズをふまえた学校運営力の向上を図る。

- ①首長部局や地域の各種団体との学習活動の共同開発及び連絡調整
- ②地域人材の活用の推進
- ③首長部局や地域への情報提供
- ④本事業に係る調査統計及び広報

4. 基礎学力の向上や ICT 機器の先導的活用など、本校の教育課題解決に向けた保護者や地域住民との連携の推進

5. パンフレット作成による、学校内外でのコミュニティ・スクール理解の推進

研究の成果

1. 首長部局と連携して設定した学習における成果

・「赤ちゃん教室」や「育ちあい講座」を通して、子育てや保育、将来自分が親になることなどをより現実的に捉え、それが生徒自身の心の育成につながった。

・「被災地研修」を通して、町を代表するという責任感の芽生えやリーダーシップの育成につながり、参加した生徒はその後の学校生活においても、リーダーとして周りを引っ張っている。また、町民・市民向けに研修の報告を行い、市全体の防災意識の高揚につなげることができた。

・「農業体験」を通して、食料や生命の大切さ、働くことの意義や苦勞などを学ぶことができた。

2. サービスラーニングを含めた地域貢献活動による成果

・「きたがた学び舎」や「読み聞かせ活動」では、事前の準備から当日の活動まで真摯に取り組み、その結果、地域住民や小学生から数多くの感謝の言葉が寄せられ、大きな達成感を感じることができた。またそのような声は、生徒たちの喜びになるとともに、何事にも積極的に取り組む姿勢へとつながっている。

・「地域子ども教室」や「町民体育大会役員補助」などの活動は、地域を愛する心や地域におけるリーダーシップの育成につながった。

3. 加配事務職員(コーディネーター)を活用した取組による成果

・首長部局や地域の関係団体との連絡調整が円滑に進んだ。

・地域からの情報収集や地域への情報提供が充実した。

・各種調査統計を実施し、地域における学校の現状や課題の発見につなげるなど、学校運営力の向上に貢献した。

本件

武雄市教育委員会 学校教育課

問い合わせ先

TEL:0954-23-8010 FAX:0954-23-5189

E-mail: [gakkou@city.takeo.lg.jp](mailto:gakkou@city.takeo.lg.jp)

※MS ゴシック、11P で作成してください。

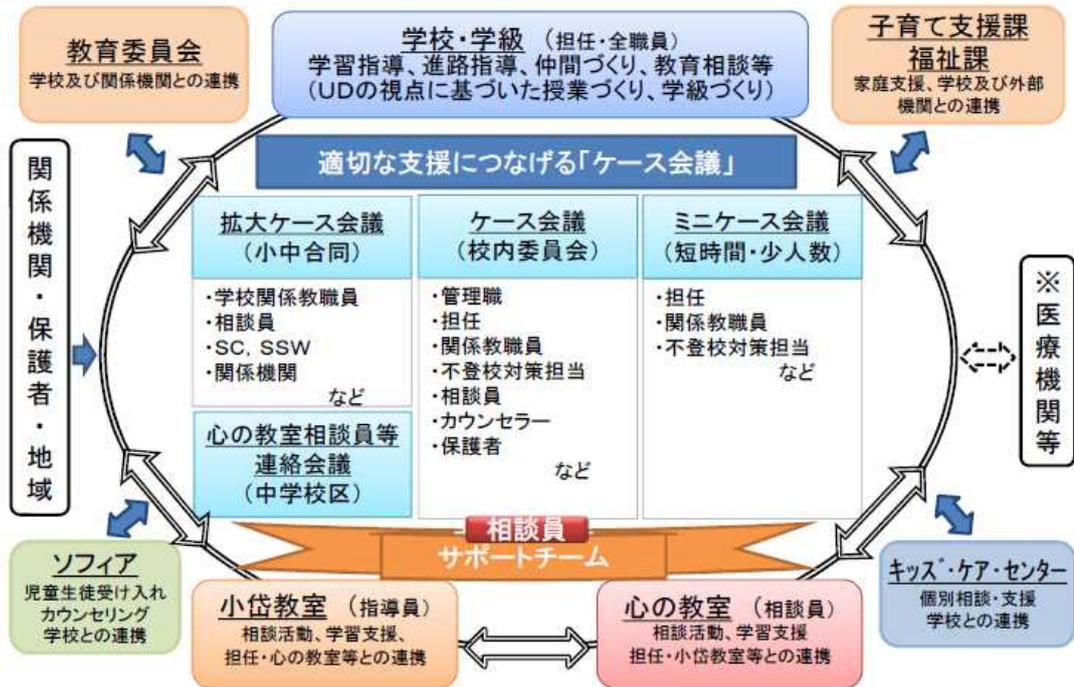
本概要版は研究成果物(研究報告書)の概略版として、HP に掲載する予定です。

A4 2枚以内で図や表、写真などを入れわかりやすくご記入ください。

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

<p>教育委員会名</p>	<p>荒尾市教育委員会</p>
<p>研究課題</p>	<p>首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業 「市長部局等との協働による不登校問題等の解決に向けたプログラムの実践」</p>
<p>研究のねらい</p>	<p>生徒約 600 名を擁する荒尾海陽中学校には、不登校生徒及び生徒指導上の問題行動がみられる生徒等が在籍しており、厳しい状況にある。これまでも中学校区や適応指導教室、SSW等と連携を図り問題解消に取り組んできたところであるが、家庭教育力の低下や地域との関わりの希薄化など、学校だけではなく地域や関係機関と連携して取り組むべき課題が山積している。</p> <p>本事業を活用し、教育委員会や学校だけでなく福祉及び子育て支援担当部局や地域、諸関係機関と連携して総合的な対策プログラムを策定する。平成 28 年度からは策定したプログラムを基に実践及び効果の検証を行い、新たな学校モデルの構築を目指す。</p>
<p>研究の概要</p>	<p>現在、表面化している不登校問題や生徒指導上の問題をより丁寧に把握するため、平成 27 年 8 月 1 日から児童生徒支援相談員 1 名を荒尾海陽中学校へ配置した。荒尾海陽中学校区に在籍する不登校等課題のある児童生徒の家庭訪問や教職員への助言・支援等の対応を行った。</p> <p>また、児童生徒の現状及び課題や支援等に関する協議を行う場として、荒尾海陽中学校区不登校対策連携協議会を設置し、各小中学校長や教育委員会だけでなく、福祉課・子育て支援課、学識経験者、地域代表、PTA代表、諸関係機関等から委員として委嘱を行った。本年度は計 3 回の協議会を開催し、各学校の現状や関係機関等との関わりについて報告を行うとともに、不登校対策におけるプログラムを策定し、平成 28 年度からは本プログラムに基づく実践を予定している。</p> <div data-bbox="351 1254 1388 2016"> <p style="text-align: center;"><b>荒尾海陽中学校区不登校対策連携協議会の構成図</b></p> <p>※ 協議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の現状及び課題に関すること</li> <li>○ 課題を抱える児童生徒の支援に関すること</li> <li>○ 不登校対策プログラムの推進に関すること</li> <li>○ その他必要と認める事項に関すること</li> </ul> </div>

## 荒尾海陽中校区不登校対策(児童生徒支援)のイメージ



### 研究の成果

児童生徒支援相談員が学校、家庭等を訪問することにより、課題を抱える児童生徒の状況について、学校での生活だけでなく家庭での生活も把握することができるようになった。また、学校になかなか登校することができなかつた生徒が、相談員による声掛けを続けたことにより学校行事には参加することができるようになるなど、相談員と児童生徒の信頼関係も構築でき始めている。実際に、荒尾海陽中学校区の不登校児童生徒数は昨年度と比較して減少しており、効果的な取り組みを実施できている。

また、荒尾海陽中学校区不登校対策協議会を設置したことにより、福祉及び子育て支援担当部局が把握する児童生徒の家庭状況に関する情報を学校や教育委員会が共有しやすくなり、児童生徒の状況をより細やかに把握することができるようになった。

これまで、各学校で必要に応じてケース会議を開催してきたが、本事業においては小中学校、保育園および市長部局等関係機関合同でのケース会議を試み、情報連携を円滑にするだけでなく、各々ができる支援について個別具体的に検討することが可能となっている。

今年度においては、不登校児童生徒や生徒指導上の問題行動がみられる児童生徒の現状把握と支援方法の検討について重点的に取り組んできたが、取り組みの中で関係機関との支援体制のベースが構築できつつあり、本事業の成果が表れてきている。

本件 荒尾市教育委員会教育振興課学務係  
 問い合わせ先 TEL : 0968-63-1659 FAX : 0968-62-1218  
 MAIL : ksinko@city.arao.lg.jp

※MS ゴシック、11P で作成してください。  
 本概要版は研究成果物(研究報告書)の概略版として、HP に掲載する予定です。  
 A4 2枚以内で図や表、写真などを入れわかりやすくご記入ください。